

気まぐれ通信

平成30年11月1日 第100号

発行者 有限会社津口ファーム鶏卵部

創刊100号記念

平成17年6月25日に創刊号を発行してから今回で100号を迎えました。ここまで来るのになんと13年と4カ月(160か月)かかっていました。途中しばらくお休み期間が長く続いていたのを覚えています。創刊号の挨拶で長く続くかどうかかわからないので、定期でなく思いついた時に発行します。ということで題字を「気まぐれ通信」とさせていただきます。



よく100号迄続いたことを我ながら驚いております。創刊した平成17年は、郵政民営化法案を巡る衆議院選挙で流行語で小泉劇場、愛知県で開催された愛地球博、プロ野球セパ交流戦が始まった年です。業界では前の年に75年ぶりに発生した鳥インフルエンザがこの年も発生し緊張感が高まっていました。ためになる記事は少ないかと思いますが、不定期で「気まぐれの通信」の発行を継続して参りたいと思いますので引き続きよろしくお願ひします。

【編集者の言葉】

100号を意識しすぎて特集号を
と意気込んだまま今日まで発行することが出来ませんでした。それで100号も一通過点として普段通りの気まぐれ通信に致しました。

広島カープ セ・3連覇おめでとございます



国際たまごシンポジウム

in 京都 2018 (1)

10月16日17日の2日間、メルパルク京都で開催されました。卵は宗教や文化に関係なく世界中で食べられている食品です。卵は、ひよこが生まれるのに必要なすべての栄養素を含んでいます。まさに栄耀の宝庫ともいえるものです。世界各国の大学教授、病院関係者、栄養士、食品関係企業、養鶏家の人達が、卵の研究発表がありました。

たまご科学研究所の渡邊乾二岐阜大学教授

- 1.卵にはまだ知られていない価値がある。
- 2.長年悪玉コレステロールの誤った知識が改善された
- 3.卵白アレルギーについて乳児から卵を食べるとアレルギーになりにくい
- 4.良質なたんぱく質が世界の資源となる。「たかが卵されど卵」卵について追及することが私たちの仕事であると発表。

フランス国立農業研究所 イヴ・ニス氏

「卵殻の強度を制御するための卵殻形成メカニズム」という演題で卵の殻は炭酸カルシウムで形成、遺伝子の力が働いている。

東京大学加藤久典氏

「卵殻膜の有用性」 卵殻は産業廃棄物扱いであるが卵殻膜は抗菌作用がある。それらを集めてシャツにもなっている。炎症を抑制する働きがある。

九州大学菅野道広氏

「卵とコレステロール：敵それとも味方」
食事のコレステロールは少なくした方が良い。卵をしっかり食べてもいいが休養して食べよう。2個以上食べても安全かどうかは、医師と血清コレステロール検査を受けて判断。上昇すれば控え上昇しなければ食べてもいい。

産業技術総合研究所大石勲氏

「始原生殖細胞を用いたニワトリゲノム編集 低アレルギー卵と金の卵を創出する」

遺伝子組換えができる始原生殖細胞PGCのニワトリを用いて金の卵を産む鶏を作る。金の卵とはお金を生む卵のこと。組換えたんぱくでインターフェロンの卵を作る。

次号に続く!

11月5日はいいたまごの日

